

中小企業家11

# Osaka

自立的で質の高い企業づくり

<https://osaka.doyu.jp>

NOVEMBER 2019 Vol.442



ビジョン2020の活用で、  
自社のありたい姿を考えてみる

士業の目

情勢の特徴

理事会報告

日中経済交流研究会新聞 第82回

環境と中小企業を考える

青年部会のページ

女性部会のページ

大阪地域自慢

中同協50周年 全国50,000名の会勢への

大阪同友会の復活ストーリー vol.1

経活の実践者 - 経営指針で会社が変わる -

第7回 (株)あさひ在宅サービスセンター 代表取締役 山本 麗子氏





巻頭特集「2019 経活のススメ」とは、各会員企業の企業経営における取り組みを紹介しつつ、人を中心とした中小企業経営に対する同友会としての考え方を解説するコンテンツです。また、それぞれの企業経営だけにとどまらず、例会や経営指針確立実践セミナーなどのさまざまな同友会の活動をあわせて紹介することで、すべての活動における考え方の根幹である「人を生かす経営(通称：労使見解)」への理解を深めていきます。

情報化・広報部：大西 隆裕

※経活：同友会での学習を生かした自社経営における改善活動



## 経活の実践者 - 経営指針で会社が変わる -

(株)あさひ在宅サービスセンター 代表取締役 山本 麗子氏

大阪南東ブロック/西成・住之江支部

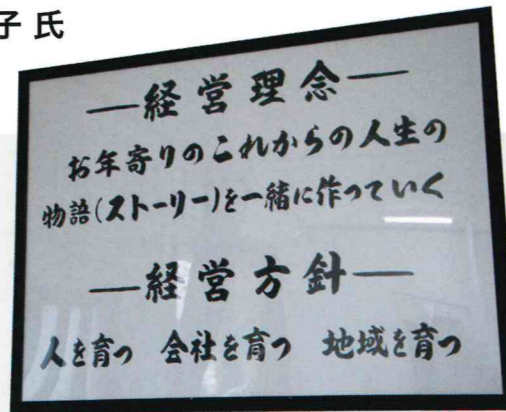
### Profile

所在地：大阪市西成区旭

設立：平成24年/年 商：1億2千万/社員数：30名

業務内容：訪問介護、住宅介護支援、福祉用品の販売

経営理念：「お年寄りのこれからの人生の物語(ストーリー)と一緒に作っていく」



96歳の利用者様が書いてくれた経営理念と経営方針

6カ月間「経活」をテーマに経営指針に取り組んでいる企業を紹介してきました。最終は南東ブロックから株式会社あさひ在宅サービスセンターの山本さんの紹介です。取材先を決めるにあたり南東ブロック長、経営委員長はじめいろいろの方に聞いたところ、すべての人が山本さんを推薦され、非常に楽しみな取材でした。

### 日本の裕福さにあこがれ

山本さんは台湾出身です。20年前日本にあこがれ来日し、病院に勤め介護の仕事をしてきました。

あこがれていた日本ですが現状に驚きを覚えます。西成

地域での仕事なので当時は患者さんも老人の日雇い労働者や生活保護を受けている方が多くいました。周りのその方たちのへの言葉使いや扱い自体が、あこがれの日本人との差が大きく悲しい気持ちになりました。

しかし、その方たちが山本さんに日本語を教えてくれました。また、戦後の混乱の話を教えてくれることもあり、この方たちが今の日本をつくってきたのだと思い、この方たちのために在宅介護やケアマネジャーの資格をとりました。

その後勤めていた病院で世代交代などのゴタゴタがあり、利用者様のことを考え、職員20人を連れて独立します。

### 課題がわからないことが課題

平成24年11月に事業を開始した山本さんは平成27年7月に同友会に入会します。今まで介護のことしか知らなかったが経営者としてやるべきことがたくさんあることを痛感します。

支部のベテラン会員から「現状維持は衰退」と言われ、どうしたらいいかを悩んでいるところ、当時の支部長から経営指針確立実践セミナーに参加することをすすめられます。

セミナーの中で「あなたの課題は？」と問われたところ課題が全く分からない状態であることに気づかされます。指針セミナーを受けている中で資金繰りや社員教育など、自社の課題にどんどん気づいていくことができました。

### 経営理念でお腹いっぱいになるのか

指針セミナーでは、毎回社員と共に考えてくる宿題がです。ここで社員と真摯に向き合うことになります。山本さんもここで苦労がありました。

作ってきた理念を伝えたところ「お年寄りが好きなのはわかった、でもそれで給与は上がるのか？経営理念でお腹いっぱいになるのか？」と言われました。

この時に、社員の考えていることと自分の考えていることが違うことを知ります。社員は理念や理想よりも生活の安定を求めている、当たり前なことだが自分はその問題を避けていたことに気づきます。

### ひとつの方向性を決めないと儲けても今だけ

苦しい思いをしながらも、山本さんは社員と議論をし続けます。この時は説得より、納得してもらうことが難しかったとのこと。しかし、やり続けたおかげで自分の思いを仲間(社員)に伝えることができました。社員の生活の安定は会社の経営の安定が絶対に必要であることを、共通の認識にすることができました。

どうやったら儲かるかとの議論では、方向性を決めないと儲かっても今だけになる、そのために経営指針が必要なのが確認されました。

### 経営理念から生まれた会社の発展

あさひ在宅サービスセンターの経営理念には「お年寄りが安心して最後をむかえられる場所を作りたい」との思いがあります。現在、日本ではたたみ一畳で死ぬのはぜいたくなことだといえます。賃貸住宅では無理、病院でしか最後を迎えられません。しかし、病院では自由がありません。

そこで、山本さんは現在の事務所のすぐ近所に4階建ての

住宅を建てることを計画しました。その住宅では末期がんの方を受け入れ、残っている最後の時間を自由に過ごしてもらいます。

1階はコインランドリーと進学支援塾を計画。お年寄りだけでなく、貧困の子どもにも目を向け、貧困の連鎖を断ち切りたい、同じ土俵に立ってほしい、そのためにも教育が必要という思いがあるそうです。

現在その計画は、土地を購入済みで着工待ちとのこと。

### 指針セミナーを受けて生産性がある

セミナーを受けて収益は1.5倍になりました。

指針セミナーを受けても仕事としてやることは同じだが、自分や社員の意識が変わる、意識が変わるといい流れになる雰囲気になります。

生産性を上げるとは仕事を詰め込むことではないとのこと。あさひ在宅サービスセンターの生産性向上とは利用者様とのコミュニケーションをアップすることで利用者様の調子が良くなる、良くなると時間を取られない、病院に入ってもすぐに退院して帰ってこられます。調子がいいと掃除や洗濯など自分のことは自分でできるようになります。こんなサイクルができることが生産性向上とのこと。

また、社員教育の取り組みで、月1回外部講師を呼び勉強会を行っています。最近では他の事業所も参加して勉強しているとのこと。これも生産性向上に向けての取り組みといえます。



### 未受講の会員へ

経営指針確立実践セミナーでは自分の弱みを見つめることができ、その弱みを強みへと変化させることができます。

名刺の渡し方もわからなかった自分が、これだけ変化できたのも同友会の活動や指針セミナーのおかげです。ぜひ受講してください。

(インタビュー：山田/写真：田村)